

# NEWS

名公医ニュースレター

# LETTER



令和5年1月  
Vol.16



平穏な歳月が経過していたが、新型コロナウイルス感染が流行し始めて、世の秩序が変わり、加えてウクライナの奇妙な戦争が続いており、世界中の生活習慣や政治経済情勢が次第に変化しています。コロナは収束に向かうでしょうが、戦争の解決は予測がつかず、不安の時代です。しかし、新しい年は卯年であり、跳ねる、飛躍する年といわれているので、新しい展開による太平への期待が大きい。

## 目次

羅針盤 ご挨拶 .....	2~3
ストレス, 心と身体のケア .....	4~5
飲食と健康 .....	6~7
医学漫步 .....	8

医の箴言 .....	9
愛知県感染症情報より .....	10
新しい一般医学用語 .....	11
編集後記 .....	12

## ご挨拶

名古屋公衆医学研究所理事長 佐藤 孝道

新年おめでとうございます。旧年中のご高配、ご協力、ご愛顧、心から御礼申し上げますとともに、今年もよろしくお願い申し上げます。

さて、厚生労働省の発表によれば、健康日本21（第二次）対策が10年を経過し、中間成果が発表されています。このうち、がん対策では、75歳未満の全がん調整死亡率が2015年の10万対84.37から70.0へと減少した（評価Aで目標達成）とあります。この難病の克服に大きく前進したのは誠に朗報でした。ただ、部位別では、女性の乳がん死亡率と子宮頸がんは上昇気味であり、さらなる努力が必要のようです。こうした対策の一端を担う検診業務施設の成果が数値として確認できたことはうれしい限りです。

一方、この3年は新型コロナウイルス感染で大きな打撃を受けました。この実害のうち、コロナ感染による過剰死亡についてはまだ公式の発表はわずかしかなかった。入手できた死亡統計では、2020年と2021年では過剰死亡は明確でなく、2022年では前年よりも死亡率で10万対0.6上昇しており、高齢者人口増加率はそれほどでもなかったので、頻度は増加、つまり過剰死亡が考えられます。この影響を平均寿命年齢の変化で見ると、令和3年（2021年）は前年に比べ0.1歳低下しています。（速報値による）。それまでは年々平均寿命は増加していました。なお、コロナによる過剰死亡が目立った欧米諸国の2020年～21年の変化は、死亡率でみると10万対0.5から2.0以上の増加があり、米国の平均寿命の変化で見ると、1歳以上低

下していました。わが国の過剰死亡はかなり少なかったのです。死因別死亡率でこの動向を見ると、わが国の2021年の数値は、老衰死亡率が前年に比べ10万対16.5と増加、脳血管疾患は1.7、心疾患は8.2、糖尿病は0.4、悪性新生物は3.1、腎不全は1.6、肝疾患が0.4でいずれも高くなっており、背景疾患のある高齢者でのコロナによる過剰死亡の影響を示唆しています。しかし、肺炎死亡は逆に10万対4.0と減少しており、この実態は究明する必要があります。中高年層の死亡率減少を目的としているだけに、生活習慣病患者へのコロナ感染の影響をさらに正確に知りたいものです。それにより、私どもの業務のコロナ感染対策への貢献度が分かるからです。付記すると、検診業務の施設では、コロナ感染の大きな感染クラスターの報告はなかったようで、また従業員の感染者も少なく、それぞれにかなりの努力をされたと推定しております。なお、コロナウイルスは変異により毒力は低下、死亡リスクは激減したようですが、感染力は強くなり、最近では若年・青年層に罹病者が増加しておりますので、引き続き厳戒は必要です。コロナ感染で低下した検診率を改善せねばなりません、焦らずに取り組みたいと思っております。

今後の目標として、新しい検診法の開発や実施方法の改善があります。特に死亡率が減少していない子宮頸がんは20歳～30歳代に患者が増加しており、その対応が急がれます。原因はよくわかっておりませんが、先進国のレベルに近づいており、やはり生活習慣の変化と

関連しているようです。したがって、有効なワクチンの接種率の向上についても努力せねばならぬわけですね。死亡率が増加し続けている乳がんでは、検診面ではマンモグラフィーのほか、超音波の活用が推奨されていますが、本年、神戸大学の木村建次郎教授がマイクロ波による検診法開発に成功されたと聞きました。乳房に圧迫を加えず、画像もより明確に示せる様であり、検診機器の早い実用化を念じております。そのほか分子生物学的知見を利用した診断法が開発されており、その実用化にも関心を払う必要があります。肺癌死亡率は喫煙対策などにより、ようやく減少期に入りましたが、まだ高いレベルにあり、現行政策の推進、普及が要請されます。

コロナ禍により、社会全体のIT化が急速に進んでおります。これをどのように検診業務に取り入れてゆくかが課題であります。すでに実用化が始まってるAIによるX線写真診断の活用も検討せねばなりません。誤診率を少しでも低下させるためです。

これまでと同様、受診者のがんに対する知識の普及、向上や、検診効率の改善、患者支援などが引き続き重要であり、これもAIの助けが必要になるかと思います。改革には政府や行政のご指導、ご援助が必要であることは言うまでもありません。

本年は卯年であり、堅実な歩みの中で、飛躍してゆきたいと期待しております。



平和共存ですね

# ストレス, 心と身体のケア

## ストレスへの対応

名古屋市立大学医学部の明智龍男教授のお話を伺ったが、ストレスが病人に与える影響のすさまじさを改めて痛感した。いわゆる健康人の心にも常時大きな負担がかかっていることは経験からも理解できる。国民健康基礎調査によると、悩みやストレスは調査対象の半数が訴えており、その原因として、仕事が36%、経済面26%、病気（自分と家族）36%、人間関係29%などとなっている。予想外に多いわけである。

心への負担はさきわめて個性的であり、多様であるので、それぞれに適した対策が要請される。一般に共通する社会的な対応だけでは不十分で、各人が自分に合った方法を工夫せねばならない。原則として、対策には休養、睡眠が原則にあるが、単純には解決できぬことが多い。毎日の生活を思い返し、いろいろな対応を考えねばならない。筆者は専門家でないので、ここで完全な回答はできないが、放置できないと考え、思いつくまま対応を列挙してみたい。生活環境を全面的に変えることは現実的ではないからである。もちろん、薬剤は重要である。これは医師の指導の下に行ってほしい。カウンセリングは効果も大きい、アクセスをためらう人も多い。

友人、知人との話し合いは効果があり、すすめられるが、効果は限定的である。

まずここでは、飲食の効果について考えてみよう。家ではなく、レストランを利用するのもよく、会食できればストレスの分散が図れる。しかし基本は家庭での献立や食べ方の工夫が重要である。飲食物は、

栄養価の高い食品を選ぶようにし、バランスの取れた献立、個々にあった味付けは欠かせない。食事の家族との会話のストレス分散効果は小さい。楽しく食事をする姿勢が大事である。食事量は控えめがよい。アルコールはできるだけ避けたいが、少量の飲酒は効果があることが多い。いかに食事をするかを家族とともに考えねばならない。家族の協力なくしてストレスは解消しない。

娯楽面では、音楽を聴く、歌を歌うことは効果があり、心になじむ作品は特に効果が高い。一人ではなく、複数の人が集まり歌を歌うことは予想外の効果がある。趣味のあったグループができるとよい。楽器を演奏できればさらに良い。カラオケがコロナで制限されたことは大きな損失と思っている。

演劇、映画鑑賞は疲れない作品を選ぶことであり、格闘技、競争など精神を高ぶらせるものは避けたい。睡眠不足や疲労はこうした効果を減退させることが多い。

関心のある内容の書物を見つけ、読みふけたり、課題を見つけて書くことがすすめられる。短い文章でよい。習慣化するよう努力する。読書は、好ましい部分は声を出して読み上げることも効果がある。視覚と聴覚を同時に刺激するからである。何事にも好奇心を持つようにすることも基本である。

現代はストレスの時代であり、子供の時代からこれをやり過ごす教育も必要であり、子供をほめたり、癒したりして気分の転換を図らせるのも親の務めであろう。常に前向きに進む習慣を身につけさせたい。



## 精神的な負荷による肉体疲労のケアー

ストレスは肉体にもかなりの影響をもたらす。気づかないうちに回復することが多いが、一旦過労状態になれば簡単には回復せず、日常生活に大きな支障となる。疲労感や骨・関節・筋肉に及び、生きる意欲を著しく低下させる。

この対策も難しい。休養や睡眠が重要であるが、慢性状態になれば、多種類の対策が必要となる。薬剤は大きな助けとなるが、個人でできるものとして以下を挙げたい。

痛みや疲労を感じずる局所に、マッサージ、指圧、軽い振動などが有効なことがある。時には、局所を冷したり、温めることも一時的な効果がある。

体操・運動は効果があるが、一日に数回繰り返す必要がある。手足のストレッチ、軽い体操、短

時間の歩行など、全身を使った軽いものがおすすめ。体操や運動の種類は、適宜に選んでよい。運動すれば、マイオカインという一種のホルモンが筋肉から分泌されるとのことで、血流が促進され、組織や細胞が活性化する作用があるという。思わぬ背景があったわけである。入浴も全身の循環を良くするだけに大きな助けになる。

バランスの取れた、食欲をそそる献立は体の疲労回復の基本である。

いずれにしても時間がかかることであるが、あきらめず継続したい。

以上は個人的な体験をもとにしたとりあえずのアドバイスであり、参考になれば幸いである。



# 飲食と健康

## ごぼう

ごぼうは外見が黒い細長い根菜であり、見栄えはしないが、昔から整腸、解毒、強壮薬として知られている。その成分にはイヌリン、アルギニンがあり、無機質としては、リン、マグネシウム、銅が相対的に多い。イヌリンは腎臓の機能を助け、発汗を促すので、浮腫に効果がある。アルギニンは性ホルモンの分泌と関連して強壮効果がある。

また、ごぼうは毒消しともよばれ、鳥獣の肉の食中毒に対し、干した根を煎じて服用せよとある。その豊富な植物繊維は腸の働きをよくするので、便通に良く、進めて喜ばれることも多い。個人差はあるであろう。母乳不足には、この種に砂糖を加え、粉末にしたものが有効とされているが、経験談は見つけることができなかった。

ごぼうの真価は、もっと多くの体験談を集めねばならない。

ごぼうは中国の東北部、シベリアが原産地といわれるが、わが国は早く導入され、平安時代にすでに主要根菜の一つであったという。もっとも、世界中でごぼうを野菜として食べつづけていたのは日本だけといわれている。現在、食品としてだけでなく、お菓子としても登場している。なお、最近のTVニュースで、北海道で従来の何倍も太くて長いものが栽培され、味もよく栄養価も高いといわれる。新しい日本の名産になるかもしれない。



## 大豆、豆乳などのイソフラボン

大豆は植物性たんぱく源であり、また、多くの無機質を含み、そのまま調理される以外に、みそ、豆腐、豆乳など使用用途は広い。大豆や豆乳の成分であるイソフラボンが閉経後の乳がん発症リスクを低下させるという疫学調査が岐阜大学の永田知里教授らにより報告され、世界中の注目を浴びた。大豆は東洋人に愛好されており、婦人の乳がんが低率なことの一つの説明になってきた。

大豆のイソフラボンには、ダイゼイン、ゲニスチン、グリシチンという配糖体がある。これらが腸内細菌により切断され、アグリコンとなり、さらにダイゼインはヒドロダイゼインからよりエストロゲン活性の強いエクオールと、活性の弱いデアスメチールアングレンシンに代謝される。エクオールは1922年、妊娠した馬の尿から発見され、エクオールと命名、ホルモン物質と分かった。人ではイソフラボン産生に個人差があり、疫学研究ではアジア地域の婦人の約50%、オーストラリアでは約30%で、産生できない原因は各個人の持つ腸内細菌環境の差と分かった。食生活でもエクオール生産能力が変わる。日本では50歳未満に産生者が少ないので、食生活の欧米化が原因と考えられている。

その後、世界中でエクオール産生腸内細菌が人から発見され、くずなどの植物からも見つかった。エクオールはラットで母乳から乳児へと移行する。エクオールはエストロゲン作用、抗アンドロゲン作用、抗酸化作用があり、前立腺肥大、高血圧、更年期症状、骨粗鬆症の予防、改善効果が報告されている。



## 葛（くず）

秋の七草の一つで、マメ科の植物である。わが国での生産量が世界一といわれる。中国では早くから薬草として知られ、葛根湯の原料として有名である。わが国では、クズ湯、クズ切り、クズあんかけ、クズもち、クズまんじゅうなど、多くの食品がつくられ、健康食品として知られている。

葛の根にはダイゼンなどが含まれ、鎮痙作用があり、葛根湯は昔から常用されてきた。風邪、解熱、頭痛、肩こり、整腸に効果がある。また、切り傷、虫刺されなどには生の葉をもんでつける。花を煎ずると二日酔いに良く、乳汁不足にはクズ粉を砂糖湯で飲むとよいといわれてきた。喘息、リウマチなどの薬効も伝えられている。



## ライ麦パン（ライパン）

ライパンは焼き上がりが茶黒い、硬めのパンである。かつては西欧でこの安価な黒パンはあまり好まれず、富裕な人は白パンを好み、黒パンは貧困層の食品であったようである。その影響が日本にも及んでいたようである。

ライ麦には麦角菌という糸状菌が付きやすく、これを食べると激しい中毒を起こすので、それも原因の一つであったという。しかし東ヨーロッパでは昔から黒パンが好まれ、常食になっていた。麦角菌は他の麦にも寄生するものであり、あらかじめ除去しておけば、食品として問題はなかったのである。しかもナポレオン戦争という古い時代に、白パンだけで育てた犬は数週で死亡したが、黒パンで飼育された犬は長く生存したという動物実験が報告され、栄養学的には優れていたことが報告されていた。ちなみに筆者は米国留学中にライパンの奥深い味に魅かれ、多食するようになった。

ライ麦の成分を見てみると、小麦パンに比べ、糖質は少なくタンパク質は多く、食物繊維も数倍多い。また、白パンに比べ、カリウム、リン、鉄、亜鉛、銅、マンガンを多く含んでおり、脂肪酸は少ない。現在はライ麦粉を20%、30%、50%と量を加減し、味良いパンとして市販され、好評のようである。昔と違って、西欧諸国でも愛好者が多い。





# 医学漫歩

## 睦仁親王の種痘

国立病院機構鈴鹿病院名誉院長 小長谷 正明

幕末の天皇、孝明天皇の外国嫌いが尊皇攘夷運動をたぎらせたといわれているが、その背景には開国に伴う輸入感染症の大流行があった。ペリー来航から5年後の1858年には長崎からコレラ（安政の虎狼猩）が流行して何十万人もが死に、収束したかと思ったら、1862年には再び長崎から麻疹が流行り（文久の麻疹）、同様に大量死をもたらした。京都では多くの廷臣・官人が罹患して朝廷機能が崩壊し、孝明天皇は親王以下群臣に勅して、更に攘夷の所見を述べられた。つまり、やっぱり攘夷だと。かくして、攘夷運動に拍車がかかっていった。

4年後の1867年1月（慶応2年12月）、孝明天皇は徳川慶喜を征夷大将軍に宣下した6日後に風邪症状を来し、さらに高熱、発疹・水疱が出て、痘瘡（天然痘）と診断された。身辺の雑用をしていた児（ちご）からの感染という。痘瘡はウイルス感染症で死亡率は高く、18世紀のヨーロッパでは死因の10～15%を占め、多くは子どもで、回復しても痘痕（あばた）や白内障が残った。天皇は、見舞いに参上を希望する祐宮睦仁親王（後の明治天皇）への感染を怖れて、「快癒の日まで参上するべからず」と仰せられた。しかし、宮が幼い頃、（実母の父）大納言中山忠能が密かに蘭方醫大村泰輔に命じて種痘を施させ奉っていた。種痘の元は牛痘であることから慎重を期して、公家の野宮定功（のみやさだいく）の童女で安全なのを確認してから、祐の宮に奉ったので、感染することはない旨を中山が奏上した。天皇は安心され、親王の見舞いを受けられた。

しかし、直後に孝明天皇の病状は急変して1月25日に崩御された。すぐに睦仁親王が践祚して帝位に就かれ、一年後に明治維新を迎えた。公武合体論者で必ずしも倒幕を進めなかった孝明天皇のこのタイミングでの突然の“お隠れ”については毒殺説がささやかれ続けているが、天皇は表向きの発表よりは重篤だという公家の日記もあり、経過中に下血されるなど、予後不良の黒

痘（出血性膿疱性痘瘡）であったと考えられる。つまり、重症感染症によるDIC（播種性血管内凝固症候群）か。

種痘は1849年に長崎に伝来し、痘瘡流行中の鍋島藩の若君に施されて予防効果が明らかになるや、同年のうちに大阪、京都、名古屋などと開国前の日本国中にたちまち広まった。幕末の京都では多くの人々が既に種痘を受けたり、あるいは感染済みで、宮中でほとんど人に接することなく過ごして来た孝明天皇だけが痘瘡に罹患し、公家に発症者がいなかった。舶来嫌いの天皇が忌避したともいわれているが、種痘は皮膚に痘苗を植え付けるには、恐れ多くも玉体を傷つけるので憚ったとも考えられる。（時代は飛ぶが、昭和天皇のすい臓がん手術に際しても、有史以来、玉体にメスを入れ奉った先例はないと、消極的な意見が宮中にあったという。）

なお、維新後の明治8年（1875年）の痘瘡流行時、明治天皇は美子（はる子）皇后とともに再び種痘を受けられ、人々に範を示された。

中山忠能日記、御痘瘡之記（孝明天皇紀所載）



孝明天皇





# 医の箴言



故日比野進先生は名古屋大学医学部内科教授で、名医の誉れが高かった国手である。先生は臨床診療に優れていただけではなく、ことに触れて患者への医療知識の啓発と予防医学の実際について教育されていた。大学ご退官後、国立病院長の多忙な時期に寸暇を割いて「ミニ養生訓」という小冊子（縦13cm、横9cm）を刊行。友人、知己、患者に配られ、私ども弟子もいただいた。簡潔に、120章にわたり、生活習慣病、老人病、頻度の多い病の解説とその対処の仕方、運動、タバコなど嗜好品と健康障害の話などをまとめられた。これはと思う新しい予防医学副読本であった。素人はもとより、若い医師にも大変参考になり、ポケットに入る大きさだけに便利であった。その後改訂版も出されている。その内容の中で、当時、他の書にはなかった内容に接し、感銘を受けた。その3章につき紹介申し上げたい。

## 1. 服薬について

古い薬は捨てること、薬品名のはっきりしなくなっている薬を捨てること。いい加減な覚えで薬をのまない様に、症状が似ているからといって他人の薬を飲まない様に、薬は注意書き通りに用いること〈抗ヒスタミン剤の入った風邪薬を飲んだら、眠くなるので、車の運転や機械の操作は避ける など〉。一回の量を増やしたり回数を増やしたりしないこと。大衆薬を勝手に飲む時は、2～3日以内にして止めておくこと。どんな薬でも長く飲み続けるときは必ず医師の指導を受けること。

## 2. 主婦の健康

家庭の主婦の健康に主人は絶えず気を使ってほしい。主婦は体の変調に気づいても家事の心配や子供の事などあれこれとあって、自分さえ我慢しておればそのうちに治るであろう、もう少し様子を見てと思っているうちに手遅れになる恐れがないとは言えない。主婦の健康は家庭の健康のもとである。主婦が倒れては大変である。

## 3. ぼけの予防

老人ぼけの予防には適当な運動をすること（ジョギング、ゴルフ、よく歩くこと等）、頭を使うこと（物を書くこと、読書、将棋、碁、短歌、俳句等、「60の手習い」）、閉じこもりがちになることを避け、明るい気持ちを持つこと、太りすぎを避けること、身の回りのことはこまめに自分ですること等など。幾歳になっても意欲をもって頭とからだを使う様な習慣や生き甲斐を若い時から持つ様にしていることが必要である。家族の者も、老人には或る程度は働いてもらう方がよい。

日比野進 編著 ミニ養生訓 より

これは1962年の発刊で、日本人の平均寿命が男66歳、女71歳の時代であり、老人ボケが注目され始めた頃に書かれたものであり、慧眼に驚くほどである。現在も訂正するところはない。

# 愛知県感染症情報より

愛知県では毎週、重要な感染症の発生状況をまとめ、週報として発刊、行政だけでなく、一般医師の大きな参考になっている。今年も年度末になり一年の感染症の動向がよく理解できる。

最近の報道はやはり新型コロナウイルス感染関係で、2022年7月から9月までの感染第7波の大きな波で、収束するかに見えたが、11月から第8波が立ち上がり、嫌な感じであったが、増加の速度はそれほど速くなさそうである。新しい変異株の出現や大幅な社会活動規制の緩和があったので、もう少し様子を見なければならない。ただ、重症者数は多くなさそうで、社会的不安は起きていない。コロナ禍も3年になり、そろそろ集団免疫の効果が見え始めているからである。愛知県の人口は約730万人、この3年間の累積患者数は約150万人（人口の約20%）、無症状感染者、未確認感染者を加え、ワクチンの接種効果を考えると、人口の半数近くは何らかの免疫を持つと推測しても大きな間違いではない。集団免疫成立は人口の約60%と言われているので、流行は鈍化してもよいかもしれない。最近の感染者の年齢別分布は、59歳以下が85%以上で、社会活動の中心層の感染が中心で、感染力は強いので、引き続き厳戒を要する。有効な国産ワクチンの登場が待たれる。

今冬はインフルエンザウイルス感染が同時流行すると予測されており、ワクチン接種が始まっている。したがって、呼吸器感染予防の基本的な原則、3密を避ける、長時間の集団的会話を避ける、マスクの着用、手洗い、うがい、換気の励行は手を抜くわけにはゆかないであろう。一方、社交的な会合の重要性は嫌というほどわかったので、適切な対策のもと徐々に会合は増えてゆくであろう。

昔から多くの常在伝染病の報告が中心で、多くの病の発生動向がグラフ化されている。しかし、新型コロナウイルス流行と並行して、驚くほどの低い感染率が続いており、小児伝染病が多いので、

子連れの外出が激減したことを示唆している。一方、手足口病の増加をはじめ、感染性胃腸炎も少くない。外出と関係の乏しい病である。しかし、これだけ低率が続くと免疫のない子供が増加し、将来爆発的に感染者が増加することも考えねばならない。

慢性病では、結核患者の新発生があまり減少しておらず、新発生は青年層に多いことも気にかかる。同年者間の感染と同時に、患者の多い高齢者結核の対策も考えねばならない。不活動に見えても排菌者がいるからである。臨床医師の対応が重要であろう。

梅毒の新発生は頭が痛い問題である。愛知県下でも昨年の倍であり、全国での1月以来48週まで累積患者数は1,135件である。未届け患者はかなりあると推定するのが常識である。年齢分布は20～50歳が多く、先天性梅毒（梅毒罹患を妊婦から集散した乳児の報告も続いている。原因として梅毒に対する警戒が緩んでいること、コロナなど社会的不安が行動変化の背景にあると指摘されている。完全に予防できる疾患であり、治療法もあるが、治療が不完全であれば、一生再発を恐れねばならぬ宿痼である。エイズの予防とともに、さらに民間の予防運動を強化せねばならない。

この週報は多くの診療施設の協力と愛知県衛生研究所のたゆまぬ努力でまとめられ、毎週公表されているもので、関係各位に敬意と深甚なる謝意を表するものである。

## 後天性免疫不全症候群患者数の動向

年度	2015	2018	2020	2022 (11月)
エイズ	43	24	25	20
無症状 キャリア	61	70	54	34
その他	4	3	2	1

（愛知県感染症情報 2022、Nov. 第1週）

# 新しい一般医学用語

## ゲノム・ワイド・アソシエーション (genome-wide-association) 研究

人の遺伝子変異を利用して病との関連を調べる方法で、メンデル型の無作為化試験とよばれている。21世紀に入り、遺伝子の研究が盛んになり、病気により人の遺伝子が増えることがわかった。その遺伝子変異と病気の原因や経過との関係を研究し始めた。しかし、遺伝子は数多く、また病と関連する遺伝子変異は一つでなく数多いことが分かってきた。それで、症例対照研究ではわかりにくいことが多いので、遺伝子変異所見と病との関連を疫学的に解析しようとする方法である。2007年、フレミングらがゲノムワイド関連分析でII型糖尿病と関連が分かったFTO遺伝子がBMI（ボディマス指数）で調整すると、糖尿病との関連はなくなってしまった。これはFTO遺伝子は病と関連するのではなく、肥満やBMIと関連していることを示唆した。そこで約4万人を対象に分析すると、FTO遺伝子のA/A型の個体は、T/T型の個体に比べ慢性リスクが70%高く、体重は30%多かった。さらにA型は先祖型であり、T型は派生型で、突然変異で出現したタイプであった。つまり、人は肥満から痩せる方に進化したと推定された。ちなみに欧州人はやせ型が少なく、東洋人は多かった。こうした知見からゲノム・ワイド関連研究が盛んになってきたのである。

日本でこうした解析から、心筋梗塞、潰瘍性大腸炎などと遺伝子変異の関連が報告されている。またアジア8カ国の共同研究で、女性の活動性肺結核患者でTP53などの変異があるものは肺腺癌のリスクが高いという研究が2019年に発表されている。将来の予防医学研究に重要であり、研究の発展が期待されている。

## アパシー

無感動という意味である。「ひきこもり」、「うつ」とは異なる高齢者の状態をさす。目標に対する行動力が低く、情操面、認知面でも機能低下がある行動症候群である。

頻度に性差はないが、やせ型で併存する病が多く、骨粗鬆症も多い。運動量が少ない。外出を好まず、新しいことに興味がなく、坐位で過ごすことが多い。機能低下による事故、特に転倒のリスクが注目される。

発症には、脳卒中などによる脳内神経伝達物質が関連すると疑われているが、詳細は分かっていない。

## Reskilling（能力再開発）

最近、従業員の能力再開発のため、企業の費用で意欲のある従業員に、より先端的な技術の習得の機会を設けることを指す。これは変化の激しい社会の変革で、業務内容を変えねばならぬ企業が増えている背景もある。企業にも新しい業務の開拓につながることも多く、また、従業員にとっても将来の道が開けるので、一石二鳥の効果があるといわれる。すでに全国の多くの企業が実施しており、注目されている。

## 編集後記

理事長は新型コロナウイルスの過剰死亡についての実態や影響についてコメントされ、改めて実害の程度に関心を持ちました。ウィズコロナの社会での今後の検診業務の在り方は容易ではなさそうで、一層の努力とともに、AIなど新しい技術の開発に挑まねばならないと感じます。精神医学の専門家からストレスの人体への影響の強さをお聞きし、その対応の重要性を再認識、ストレス解消について、不完全ながら個人的対応のいくつかを紹介しました。小長谷先生には、いつもながら興味深い記述、楽しませていただきます。

今年により良い年であることを念じております。

青木國雄

# 一般財団法人 名古屋公衆医学研究所のご案内

## 健診・検診のご案内

- |                                       |                                      |                                     |
|---------------------------------------|--------------------------------------|-------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> がん検査・検診      | <input type="checkbox"/> 海外派遣労働者健康診断 | <input type="checkbox"/> 四アルキル健康診断  |
| <input type="checkbox"/> 人間ドック、出張総合検診 | <input type="checkbox"/> 労災保険二次健康診断  | <input type="checkbox"/> 情報機器作業健康診断 |
| <input type="checkbox"/> 結核検診         | <input type="checkbox"/> 法規による特殊健康診断 | <input type="checkbox"/> 振動健康診断     |
| <input type="checkbox"/> 特定健康診査       | <input type="checkbox"/> じん肺健康診断     | <input type="checkbox"/> 騒音健康診断     |
| <input type="checkbox"/> 特定保健指導       | <input type="checkbox"/> 有機溶剤健康診断    | <input type="checkbox"/> 腰痛健康診断     |
| <input type="checkbox"/> 後期高齢者医療健康診査  | <input type="checkbox"/> 鉛健康診断       | <input type="checkbox"/> 衛生検査       |
| <input type="checkbox"/> 検診事後指導       | <input type="checkbox"/> 電離放射線健康診断   | <input type="checkbox"/> 生活習慣病健診    |
| <input type="checkbox"/> 定期健康診断       | <input type="checkbox"/> 特定化学物質健康診断  | <input type="checkbox"/> その他諸検査     |
| <input type="checkbox"/> 特定業務従業者健康診断  | <input type="checkbox"/> 高気圧業務健康診断   |                                     |

## 日帰り人間ドックのご案内

- |                                  |                                  |
|----------------------------------|----------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 問診調査    | <input type="checkbox"/> 胃部X線検査  |
| <input type="checkbox"/> 尿・腎機能検査 | <input type="checkbox"/> 心電図検査   |
| <input type="checkbox"/> 身体計測    | <input type="checkbox"/> 眼底検査    |
| <input type="checkbox"/> 血圧測定    | <input type="checkbox"/> 眼圧検査    |
| <input type="checkbox"/> 血液検査    | <input type="checkbox"/> 肺機能検査   |
| <input type="checkbox"/> 腹部超音波検査 | <input type="checkbox"/> 便潜血反応検査 |
| <input type="checkbox"/> 胸部X線検査  |                                  |

### オプション検査

- 婦人科検査(女性のみ)子宮ガン
- 乳がん検査(マンモグラフィ、超音波)
- 骨粗しょう症検査(超音波)
- その他 有

## お申込方法

受診はすべて予約制です。  
ご来所または電話・FAXでお申込ください。

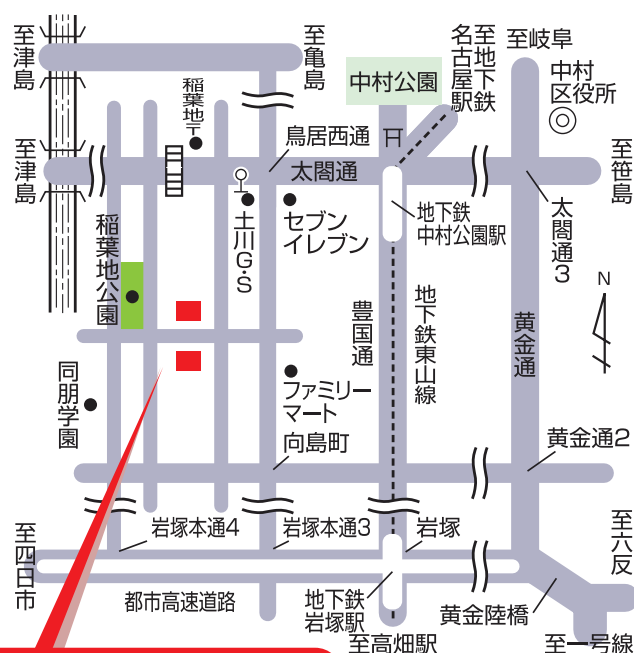
**電話: (052) 412-3111**  
**FAX: (052) 412-2122**

名古屋公衆医学研究所ホームページ

<http://www.meikouji.or.jp>

公衆医学

検索



(一財)名古屋公衆医学研究所